

平成30年 5月10日

第160号

# NJ素流協 News

平成30年 5月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

表 平成29年度取扱量(共同販売・システム販売分)

区分	合板用 (m <sup>3</sup> )	製材・集成材用等 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )	バイオマス発電用 (t)
H29実績	193,593	131,167	324,760	118,539
計画量	185,000	115,000	300,000	100,000
計画比	104.6%	114.1%	108.3%	118.5%
H28実績	170,096	99,777	269,873	93,305
前年比	113.8%	131.5%	120.3%	127.0%

共同販売及びシステム販売における

▽共同販売・システム販売  
ご協力いただいた組合員並びに木材加工工場、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

## ノースジャパンス素材流通協同組合 平成29年度素材取扱量

### 合板・製材・集成材・バイオマス等で前年比22%増

NJ素流協の平成29年度素材取扱量の合計は、国有林材委託販売を含めて45万1592m<sup>3</sup>となり、前年度実績37万101m<sup>3</sup>を大きく上回った。ご協力いただいた組合員並びに木材加工工場、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

▽共同販売・システム販売  
共同販売及びシステム販売における取扱量は、合板用針葉樹素材を主体として合計32万4千m<sup>3</sup>となり、計画比108%、前年比120%と大幅増となった。バイオマス発電用素材については、取扱量が11万8千トンとなり、計画比118%、前年比127%と実績を伸ばした(表)。バイオマス素材を1トン11m<sup>3</sup>として材積に換算すると、合計で44万3千m<sup>3</sup>の取扱量となり、前年比22%増と大きく躍進した。

用途別には、合板用素材の取扱量は19万3千m<sup>3</sup>で、計画比104%、前年比113%であった。樹種別内訳は、スギ12万5千m<sup>3</sup>(構成比65%)、カラマツ3万3千m<sup>3</sup>(同17%)、アカマツ3万4m<sup>3</sup>(同18%)。合板用材取扱量の増加の要因としては、外材の価格高騰により、合板工場の国産材利用率が上昇していることがあげられる。

製材・集成材用等素材は13万1千

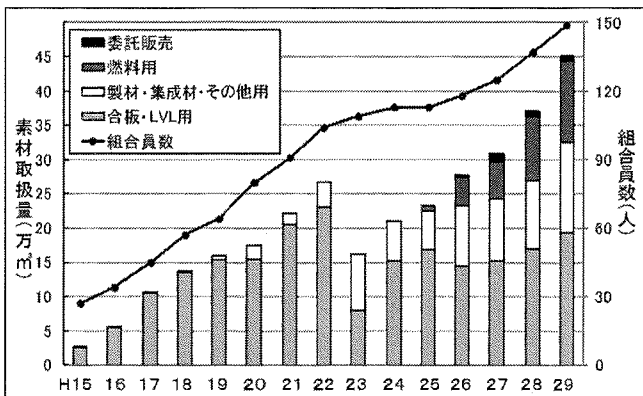


図 NJ素流協素材取扱量・組合員数の推移

▽取扱量及び組合員数の推移  
のとおりに、計画比114%、前年比131%となった。樹種別内訳は、スギ12万1千m<sup>3</sup>(構成比93%)、カラマツ7千m<sup>3</sup>(同5%)、アカマツ2千m<sup>3</sup>(同1%)、その他1千m<sup>3</sup>(同1%)である。事業地域の拡大と取引先増加の努力が結果につながったものと言える。

▽国有林素材委託販売  
国有林素材の委託販売取扱量は8293m<sup>3</sup>であった。

▽取扱量及び組合員数の推移  
取扱量・組合員数の推移は次の図のとおり。

# 平成29年度林業経営講座(後期)

## 山形県新庄市・金山町において先進地視察研修を実施

NJ素流協は、3月27、28日の2日間、山形県において「林業経営講座(後期)先進地視察研修」を開催し、組合員と役員20名が参加した。今回の研修では、平成29年度より事業地域に加わった山形県の新庄市と金山町を訪れ、木材加工工場・木材運搬専用車両工場・金山杉の素材生産事業を視察した。

### 1. 協和木材(株)新庄工場(新庄市)

最初の訪問先、協和木材(株)新庄工場で、菊池正明工場長より事業概要と集材材製造工程について説明を受けた。

協和木材(株)(本社東京都、佐川広興代表取締役)は年間40万m<sup>3</sup>の原木を加工する国産材製材の大手である。新庄工場は平成29年1月、新庄中核工業団地内に完成した。工場敷地面積は、貯木場と合わせて約116000m<sup>2</sup>、スギ集成管柱を主に製造している。使用する原木はスギ2m材に特化しており、消費量は月1万m<sup>3</sup>。平成29年は1万1千m<sup>3</sup>を達成し、今年は1万2千m<sup>3</sup>が目標だという。製品の生産量は管柱と間



協和木材(株)新庄工場は平成29年4月竣工

柱合わせて月3千m<sup>3</sup>を目標としている。歩留は約36%である。

製造ラインは、リングバーカーで丸太の樹皮を除き、キャンターでラミナ(板材)に製材するところから始まる。キャンターに投入可能な丸太の最大直径は45cmで、それ以上のものは機械が自動的にほじく。乾燥機は10基あり、熱と蒸気は樹皮と木くずを焚くボイラーから供給している。集成材の製造工程は、大きく5つか



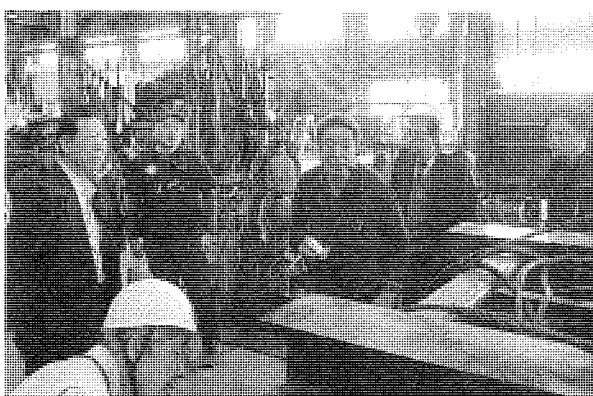
菊池工場長より集成材製造工程を説明いただく

らなる。①ラミナ荒仕上げライン②検査カメラで原木の節や虫腐れ等の欠点を見つけてカットする。③フィンガージョイントライン④ラミナの端に施したギザギザをかみ合わせ、数トンの力をかけて縦につなぐ。何メートルでも製造可能だが、一番需要の多い3mにしぼって作っている。③ラミナ仕上げライン④表面を削って滑らかにする。ジョイントの点検も行う。④回転コンポーザーライン⑤4枚のラミナを圧着して柱状にする。⑤製管仕上げライン⑥表面を滑らかに仕上げた後、抜き取りで破壊検査を行い、合格したものにJ

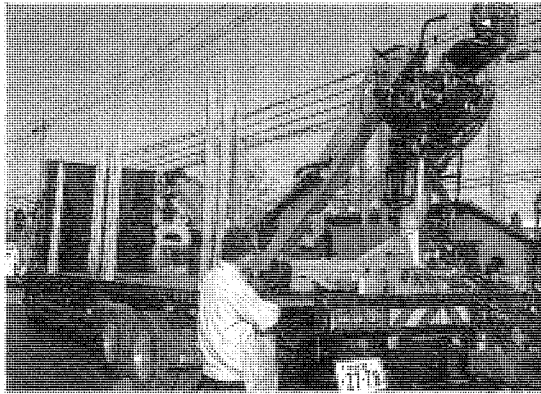
ASシールを貼り付け完成する。この後、工程に沿って工場内を見学させていただいた。「コンパクトな工場でコストダウンを図っている」との説明に納得であった。

### 2. 新庄自動車(株)(新庄市)

新庄自動車(株)(佐藤啓代表取締役)は同じ工業団地の中にある、各種木材運搬専用車両の製作・架装を専門に行う工場である。スロベニアのローダークレーンメーカーLIV社製品の代理店にもなっており、当組合員の中にも、同社が組み立てた車両を使用している事業者は多数あると思われる。



新庄自動車(株)、佐藤啓社長(中央)



(有)松田林業が所有するHIRAKU式フルトレーラ

この日はちょうど組合員(有)松田林業(岩手県住田町)所有の独自製品「HIRAKU式フルトレーラ」が持ち込まれており、実際に動かして見せてもらうことができた。HIRAKU式とはトレーラの連結部に油圧操舵機能とロック機能を搭載して、バック走行を容易にした独自技術である。佐藤社長が自ら乗り込んで、決して広大とは言えない同社の敷地内で、見事にクラックをバックして見せた。

佐藤社長は自ら工具を操るクラフトマンであり、工場内を案内する間にも、様々な工夫と技術について解説されていた。当組合員の、特に運送会社関係



右から(有)三英クラフト星川社長、森取締役業務部長

者の熱心な質問に、丁寧に答えていらしたのが印象的であった。同社への注文は、「来年までぎっしり」とのことである。

### 3. (有)三英クラフト(金山町)

(有)三英クラフト(星川隆弘代表取締役社長)は金山杉で名高い金山町で、約2000haの山林を森林経営計画により管理している。地元の大山主、岸三郎兵衛氏(同社代表取締役会長、三英興業(株)代表取締役社長)から山林の管理を依頼されたことが始まりとのこと。この日は星川社長と森義明業務部長の案内で、素材生産現場を見学した。同社は植栽から保育・間伐、伐採、



(有)三英クラフトの金山杉事業地

販売までを一貫して行っている。伐採中の現場は、4回の間伐を経た林齢約100年のスギ林である。

丸太はほぼ注文生産で、A材は地元製の製材工場や森林組合等へ、B材は集材工場、特A材は山形県森林組合連合会の市場へ出荷するという。造林のために、林地残材は山から下ろし、伐根もきれいにし、高級家具材等の需要に役立てているという。

同社はバイオマス部門を持ち、素材生産現場の低質材はバイオマス燃料として活用するほか、社有林の広葉樹を



「大美輪の大杉」で記念撮影

暖炉用の薪材として生産し、販売も行っている。

両氏の案内で、現場からほど近い「大美輪(おみのわ)の大杉」を見に行った。江戸時代に植えられた樹齢約300年の金山杉が100本以上立ち並ぶ美林である(岸氏所有)。

今回の研修では、古くからの伝統ある林業地で、自らの工夫と新しい発想、丁寧な仕事で事業を行う各社の姿を見ることができた。

視察を受け入れてくださった各社の皆様に、厚く御礼申し上げます。

# トピックス

## いわて林業アカデミー 平成30年度開講式を挙

いわて林業アカデミーの平成30年度開講式が4月11日、岩手県矢巾町の県林業技術センターにおいて挙行された。

第二期生となる10代から30代の研修生18名が出席し、同センター赤澤由明所長より研修許可証と安全服一式を手渡された。式には上田幹也県農林水産部長を始め、佐々木順一県農林水産部長を始め、佐々木順一県議会議長、小島孝文東北森林管理局長ほか、来賓、父兄、サポートチームの企業・団体の代表など約100名が列席した。当組合からは鈴木理事長が出席し、研修生を激励した。

今年度の研修生は全員男性の、推薦選考合格者5名、一般選考合格者13名の18名(うち高校新卒者8名)で、昨年度より3名枠を拡大しての開講となった。出身地は岩手県盛岡市4名、花巻市2名、久慈市1名、遠野市1名、一関市1名、釜石市3名、

滝沢市1名、岩手町1名、紫波町1名、岩泉町1名、軽米町1名、宮城県栗原市1名。中にはNJ素流協組合員の子弟も含まれており、林業人としての成長が大いに期待されている。

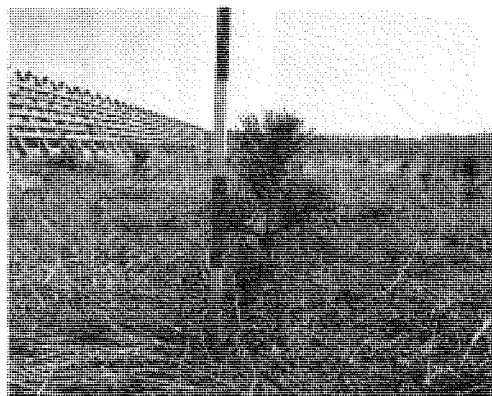
研修生は来年3月までのカリキュラムに従い、林業に関する知識や技術を習得するほか、林業就業に必要な9つの資格等を取得する。当組合は昨年に引き続き、木材流通に関する講義や現場研修を担当するとともに、組合員が就業体験研修を受け入れることとしている。



二期生18名を迎えてアカデミー2年目が始動！

## 「フースジャパン1000年 復興の森」活動報告 林内巡視を実施しました

当組合が宮城県名取市において行なっている海岸防災林再生活動について、4月10日、経営企画課員が林内巡視を行なった。



30cmほどに成長した松くい虫抵抗性クロマツ

昨年5月12日に植栽したマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツコンテナ苗400本について生育状況を確認したところ、苗高は30〜40cmほどになり、おおむね順調に生長していた。一部倒れたり、根元の土が陥没したりしたものを植え直したほか、枯損等により補植が必要になった約

30箇所印付けを行なった。今年度中に補植と下刈を行なう予定。

## 共同研究「岩手県における カラマツ丸太、集材用ラ ミナの強度分布調査」報告 会を実施

当組合が岩手県林業技術センターと共同研究を行なっている標記調査の報告会が、4月13日盛岡市内で開催された。本研究の目的は、高い強度を要求される建築部材へ県産カラマツの利用を拡大するため、カラマツの地域的強度分布や、形質と強度性能等の相関等を明らかにすることである。

報告会は、調査の協力者を対象に企画したもので、(有)川井林業(岩手県宮古市)澤田令代表取締役をはじめ、試験用丸太を提供した組合員、県林業振興課職員、当組合役職員が出席した。

林業技術センター谷内博規上席専門研究員が次のとおり報告した。

県内5地域(二戸、軽米、遠野、葛巻、岩泉)で生産されたカラマツ

丸太150本、その丸太から製造したラミナ1008枚について、非破壊試験(動的ヤング係数の測定)を行った。この測定結果を分析し、①カラマツの強度に地域差はあるか、②丸太の強度を目視により予測することは可能か、③強度の高い集成材を製造するための条件とは何かを探った。

結論として、①強度に大きな地域差は認められない、②高強度のラミナを得る材質指標として、未成熟部位(髓から15年輪)を除く、心材の年輪幅3mmが目安 ③E120の集成材は製造可能、ただ単体では歩留りが落ちるので、複数の構成・等級の組み合せを考える、以上3点をまとめとした。

今後、さらに調査・解析を重ね、最終的な研究成果をとりまとめる予定となっている。

**いすゞ自動車(株)に原木  
運搬専用トラックの開  
発を要望**

4月18日、当組合と東北地区原木トラック運送協議会の連名で、いすゞ

自動車(株)に対し、3軸6輪駆動の原木運搬専用トラック(TWの後継車)の開発および生産・販売の再開を要望した。

いすゞ自動車(株)の担当の方から、「実際にどのように使われているか見てみたい」との連絡があり、5月中に案内する予定。

**合法木材等供給事業者  
の認定 (平成29年度)**

認定番号	組合員名	認定年月日
素流協-116	菅原木材	H29. 4. 24
素流協-118	(株)フォレスト創森	H29. 5. 1
素流協-099	遠藤林業(株)岩手工場	H29. 11. 2
素流協-235	(株)タカモク運送	H29. 11. 2
素流協-124	(有)箱石商店	H30. 1. 24

**【未受講者は必ず受講!】  
合法木材等供給事業者認定  
講習会(第2回)の開催案内**

**\*対象者**

第1回講習会(1/16開催)を

受講しなかった事業者

\*開催日時 5月21日(月)

13時30分~14時30分

\*会場 ホテルメトロポリタン盛岡

ニューウイング

**お知らせ**

第15回通常総会を次のとおり開催します。組合員の皆さまの出席をお待ちしております。

【日時】 5月21日(月)

通常総会 15時00分~

懇親会 17時30分~

【場所】 ホテルメトロポリタン盛岡

ニューウイング

**事務組織の再編成と  
人事異動**

**【事務組織の再編成】**

事業量の増大等に対応し、効率的な組織とするため、管理部と経営企画部を統合し経営企画管理部(7名)とし、営業企画部(8名)との2部体制とした。

**【人事異動】**

経営企画管理部

野田秀一(経営企画課課長補佐)

営業企画部(※3名新採用)

八柳芳昭(営業企画部次長)

波紫翔平(営業企画部課長補佐)

藤澤里緒(販売管理担当)

**【新採用職員自己紹介】**

①出身地②趣味・特技③一言

八柳芳昭(やつやなぎ・よしあき)

①盛岡市②ドライブ(1日千km位の

運転もOK!)③今まで木炭に関す

る仕事をしていました。針葉樹は初

めて扱います。勉強中ですので皆様

よろしくお願いします。

波紫翔平(はし・しょうへい)

①青森県十和田市②スポーツ、旅行

③新天地で右も左も状態ですが、精

一杯努力させて頂きます。体力には

自信がありますので、ピンピンご指

導お願いします。

藤澤里緒(ふじさわ・りお)

①栗石町②お酒を嗜むこと③分から

ないことばかりで至らないところも

多いと思いますが、皆様のお役に立

てるよう、元気に明るく頑張ります!



# ちよつと気になる木の話

22

## 木造住宅の本当の動き 〜都道府県別木造戸建住宅

### 統計から見えること

一般的に住宅の木造率は50%で、完全に木造住宅時代ではないと見えるが、これはマンション・アパートの共同分譲住宅を含めての数字である。一般的な人が住宅として想像する戸建住宅では、H27で88.6%の木造率である。この数字を見れば、戸建は木造であることが明白といえる。近年では表の通りH15 84.0%からH20 85.7%、H25 88.0%と年々上昇していることがわかる。

それでは本題に入ろう。都道府県別にみると、トップは青森96.7%、島根96.1%、秋田95.7%となり、やはり地方の戸建木造率が高いのかと思う。

しかし、関東の都市圏をみれば、東京・神奈川90.3%、埼玉91.1%、千葉89.9%と全国平均を上回っている。実は、昭和の時代から関東の都市圏では高い数字であった。これは、人口流入者が、元々戸建木造率の高い東日本からの者が多いことがあげられていた。

年度	H15	H20	H25	H27	H27 H15	H27木造 戸建戸数/戸
北海道	93.4	94.3	94.2	93.7	100%	12,096
青森	95.8	94.4	95.8	96.7	101%	3,801
岩手	94.1	95.3	94.1	95.0	101%	4,815
宮城	88.3	88.9	90.0	90.2	102%	10,358
秋田	94.9	93.4	94.2	95.7	101%	2,761
山形	93.2	92.5	93.2	94.0	101%	3,460
福島	89.3	89.2	89.0	88.5	99%	7,876
茨城	85.6	86.5	88.3	89.1	104%	11,170
栃木	85.2	85.8	88.9	88.4	104%	7,628
群馬	85.0	86.5	90.3	90.0	106%	7,920
埼玉	88.5	88.5	90.3	91.1	103%	27,650
千葉	89.2	89.2	90.5	89.9	101%	20,189
東京	87.6	86.8	89.4	90.3	103%	31,099
神奈川	88.7	88.9	90.1	90.3	102%	27,464
新潟	93.6	93.3	94.0	94.5	101%	6,757
富山	92.0	92.8	95.0	95.2	104%	3,447
石川	91.6	92.4	94.9	95.1	104%	4,364
福井	84.2	88.9	92.6	94.8	113%	2,525
山梨	86.0	86.4	87.6	86.1	100%	2,901
長野	87.3	85.1	90.3	89.4	102%	6,982
岐阜	80.6	82.5	86.0	86.6	107%	6,860
静岡	80.3	80.7	81.4	82.4	103%	12,807
愛知	73.5	76.4	80.2	80.0	109%	23,367
三重	78.1	81.1	83.2	83.8	107%	5,413
滋賀	79.9	82.3	85.7	86.4	108%	4,606
京都	86.3	88.8	89.6	91.0	105%	6,989
大阪	70.2	85.3	89.4	90.9	129%	18,828
兵庫	81.5	84.2	87.2	87.5	107%	13,490
奈良	82.6	83.9	86.1	87.1	106%	3,607
和歌山	78.4	82.9	84.9	86.3	110%	2,669
鳥取	85.8	86.1	91.2	93.2	109%	1,327
島根	91.4	93.3	94.7	96.1	105%	1,532
岡山	77.2	80.5	82.5	82.7	107%	5,211
広島	80.8	81.3	86.4	88.1	109%	7,179
山口	74.1	79.4	81.9	85.7	116%	3,217
徳島	84.3	88.4	91.2	91.9	109%	2,129
香川	83.7	87.6	89.3	91.3	109%	3,028
愛媛	83.0	85.8	89.8	90.7	109%	3,699
高知	78.6	82.1	89.1	91.5	116%	1,620
福岡	80.7	82.8	87.9	88.2	109%	11,856
佐賀	84.2	84.1	88.6	90.6	108%	2,242
長崎	84.9	86.8	90.6	89.0	105%	2,910
熊本	86.9	86.7	90.3	91.5	105%	5,242
大分	83.3	83.3	86.0	87.2	105%	2,981
宮崎	91.2	89.7	93.5	93.6	103%	3,543
鹿児島	87.5	90.1	93.2	93.5	107%	5,128
沖縄	5.2	6.7	13.5	21.2	408%	631
全国	84.0	85.7	88.0	88.6	106%	367,374

表 都道府県別戸建木造率の推移

逆に関西圏では、戸建木造率は低かった。現状をみると、大阪90.9%、滋賀86.4%、兵庫87.5%と意外に高い。えっ！かつては60%〜70%だったのである。実際にH15と比較してみれば、大阪は70.2%↓90.9%と急増である。これは何を意味するのかわかる。非木質プレハブは関西発祥企業が多いが、この時期に木造軸組への進出が相次いでいることがあげられる。今や、住宅メーカーが一斉に木造への戦略を強化しているのである。

次に木造率の急増は、高知78.6%↓91.5%、徳島84.3%↓91.9%、愛媛83%↓90.7%、鹿児島87.5%↓93.5%、福岡80.7%↓88.2%である。四国・九州に多い。昭和から平成頭にかけてこの地域は、戸建木造率は極めて低かった。この中の某林業県の林政課長は、自宅は木造ではないと言った。「何故」と聞いたら、「木造は、台風・水害に弱いから、常習被害地域で木造は建てない」と述べていた。林政課長である……。やっとな、ここに来て、台風・水害等の災害にも木造は他構造に負けないとの認識が確立されたのである。

最後は沖縄である。常に最下位である。同住宅の木造化が、今後のキーワードである。愛知80.0%、静岡82.4%、三重83.8%の東海エリアである。林業・木材産業集積地なのに何故？理由は述べないが、業界の奮起が望まれる。

表 都道府県別戸建木造率の推移

平成30年4月分の販売実績

樹種	合板用			その他製材用等			計		
	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	11,407	92.6	93.4	8,906	113.4	87.4	20,313	100.7	90.7
カラマツ	2,943	99.3	107.3	161	180.6	23.9	3,105	101.7	90.8
アカマツ	4,098	124.0	127.8	0	0.0	0.0	4,098	119.2	121.4
その他	0	*	*	118	34.0	276.7	118	34.0	276.7
合計	18,449	99.2	101.6	9,185	109.1	83.0	27,634	102.3	94.5

樹種	バイオマス用素材		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	7,474	137.9	109.9
カラマツ	1,208	108.4	73.2
アカマツ	3,211	68.4	134.7
その他	36	*	*
合計	11,929	106.2	110.1

樹種	今年度累計			
	合板用 (m <sup>3</sup> )	その他製材用等 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )	バイオマス (t)
スギ	11,407	8,906	20,313	7,474
カラマツ	2,943	161	3,105	1,208
アカマツ	4,098	0	4,098	3,211
その他	0	118	118	36
合計	18,449	9,185	27,634	11,929
目標達成率 (%)	8.8	6.3	7.8	9.5
計画量	210,000	145,000	355,000	125,000

注)\*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成30年4月の需給動向】

- 気温が上昇し、工場の生産性が向上されたことで原木不足が一部に発生した。
- 原木価格の動向は依然、値上げ状況を維持し特にカラマツ不足による値上げが目立つ。
- 5月は出材量も多く、原木不足の状況が多少は改善される見込み。

耳からウロコ

日本海側の林業地の特徴

よく地図を見るとわかることは？

日本海側のスギの優良産地といえ  
ば、鳥取県智頭地域、福井県美山・

池田地域、新潟県村上地域、秋田県  
米代川上流地域、青森県大鰐地域、  
蟹田地域となる。この地域の共通点

は何かである。古い時代から、林業  
地として植林され、手入れが行き届  
いていたからだろうか？太平洋側の

林業地と比較して、枝打ち施業では  
なく、自然落枝型のスギの林業地で

ある。地図をよく見てみよう。共通  
するのは、冬の北西の季節風に対し  
て、一山越えた裏側にあることがわ

かる。風で木が揺れることがなく、  
林の上を風が飛ぶエリアである。そ  
の結果、もっと高い奥羽山脈等の高

い山まで風が飛ぶこととなる。この  
エリアは、いずれも豪雪地帯であり、  
豪雪の降る日は、シンシンと音もな

くなる感じである。丸太や製品にし  
た特徴は、年輪が均等ではっきりし

ていて、色も落ち着いている。この  
ことは、意外と夏が暑いエリアでも  
あり、年輪の差がキツチリ出ている  
こともあると思う。

ヒバの産地でみても、青森県増川、  
大畑の木は評価が高い。地図上の位  
置づけは一緒である。

一方、ブナの評価が高いのは、鳥  
海山麓、森吉山麓、八幡平山麓、津  
軽半島金木地域等全く逆の北西の風  
がまともに当たる地域になる。単に  
優良人工林に向きにくい意味だろう  
か……。

最も評価の高い天然秋田スギとい  
えば、旧能代署仁鮎、上岩川、旧上小阿  
仁署大内沢、旧合川署羽根山となるが、  
旧署は違うが全く同じ場所につきあ  
たる。旧秋田署仁別、旧五城目署馬場  
目も全く同じ場所です。北西季節風の  
山裏側に当たる。私の個人的分析だ  
が、当たりと確信している。

戦後の拡大造林による人工林は、  
百年かけた人工林適地探しだと考え  
るが、このような視点からも適地の  
見極めが必要だと思う。ちなみに、  
私の出身地はそのど真ん中にある。